

多摩地域 30 自治体への ダンボールコンポストに関する アンケート調査結果

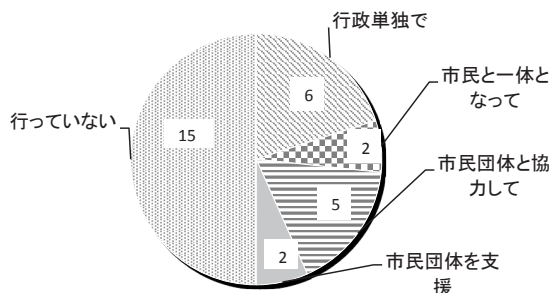
ごみ・環境ビジョン 21 理事 小野寺 勲

近年、家庭での生ごみの減量・堆肥化の手段として、ダンボールコンポストの人気の高まっており、自治体もその普及啓発に乗り出しています。人気の理由は、ダンボールコンポストは耐久性では劣るものの、低コストで、通気性に優れているため、初心者でも手軽に始められるからです。

そこで、多摩地域の自治体におけるダンボールコンポスト普及への取り組み状況などについて、各自治体で情報を共有し、今後の取り組みの参考にしてもらうため、多摩地域 30 自治体を対象に、2014 年 4 月 2 日～25 日にアンケート調査を実施。回収率 100%。調査結果は、6 月 25 日付の読売新聞でも紹介されました。

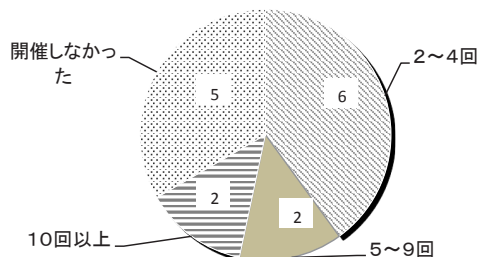
普及啓発実施状況 n = 30

半数の 15 自治体がダンボールコンポストの普及啓発を実施。実施形態としては、「行政単独で」6 自治体、「市民団体と協力して」5 自治体、「市民と一体となって」と「市民団体を支援」が各 2 自治体。



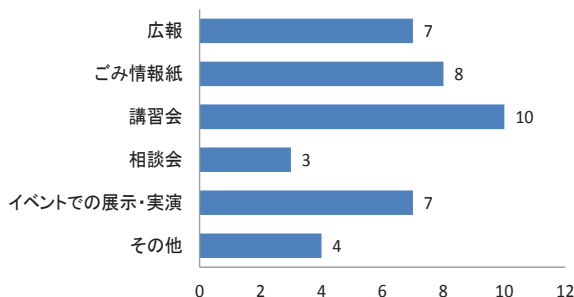
昨年度の講習会の開催状況 n = 15

昨年度に、ダンボールコンポストの講習会を開催したのは 10 自治体で、開催回数を見ると、2～4 回が 6 自治体と多い。最多は八王子市の 20 回で、次が日野市の 13 回。



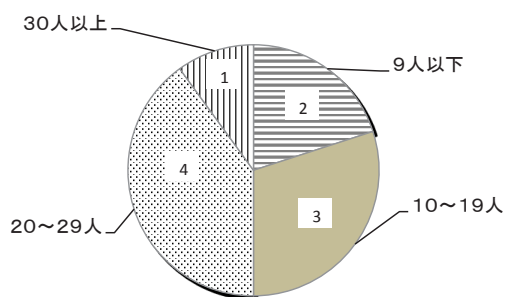
普及啓発方法（複数回答） n = 15

「講習会」を中心に、「ごみ情報紙」「広報」「各種イベントでの展示・実演」が主体。



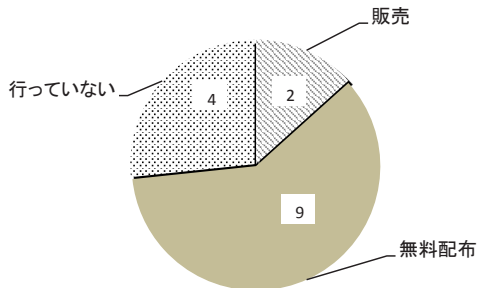
1 回の講習会の参加者数（最頻値） n = 10

1 回の講習会の参加者数は、9 人以下から 30 人以上まで分散。1 回の参加者数は、年間開催回数と関連があり、年間開催回数が 2～4 回の場合は 20 人以上が多く、5 回以上の場合は 19 人以下が多い。



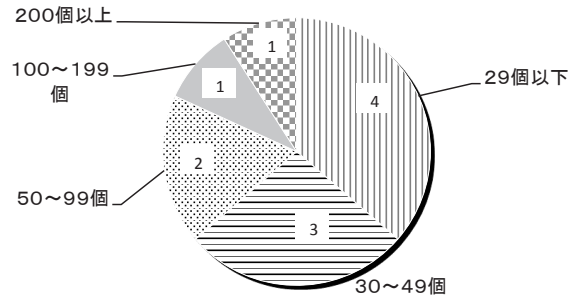
セットの販売・無料配布状況 n = 15

ダンボールコンポストセットを販売しているのは日野市と多摩市の2自治体のみで、9自治体は無料配布、4自治体は啓発だけで、販売や無料配布は行っていません。



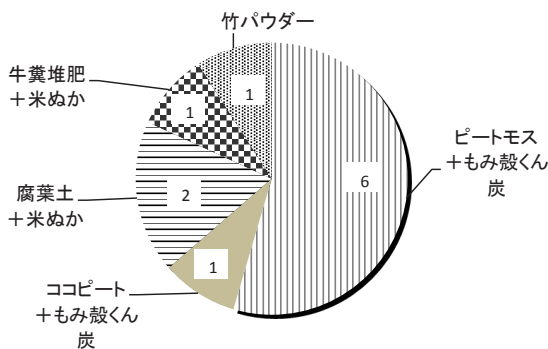
昨年度のセット販売・無料配布個数 n = 11

昨年度のセットの販売・無料配布個数は、50個未満が7自治体。最多は、販売では日野市の101個、無料配布では八王子市の230個。両市とも講習会の開催回数が比較的多い。



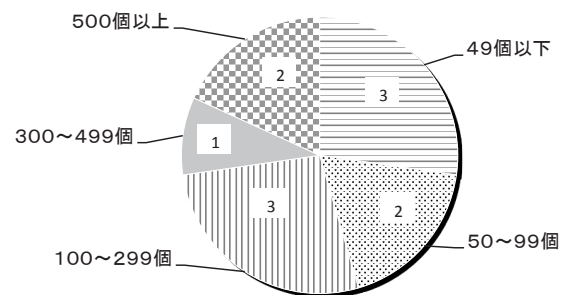
セットの基材 n = 11

ダンボールコンポストセットの基材としては、「ピートモス+もみ殻くん炭」が6自治体と最も多い。そのほかに、「腐葉土+米ぬか」などさまざまなものが使われています。



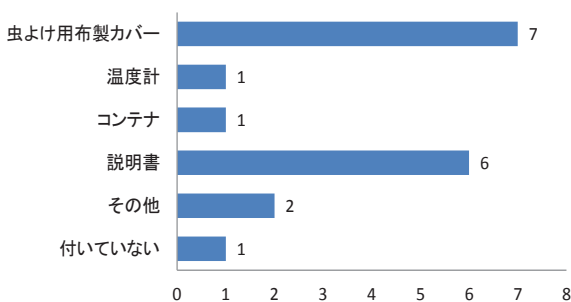
セットの累計販売・無料配布個数 n = 11

セットの累計販売・無料配布個数は、5自治体が100個未満で、そのほとんどは始めたばかり。最多は、販売では日野市の536個、無料配布ではあきる野市の977個。両市の共通点は、地域での普及啓発。



セットの付属品(複数回答) n = 11

セットの付属品としては、「虫よけ用布製カバー」と「説明書」が主。



普及促進に有効な方策(自由回答) n = 15

- ・実演による講習会の実施 (4件)
- ・生ごみの減量や堆肥化が手軽にできることをPRする (3件)
- ・生ごみ堆肥で元気な野菜や花ができることをアピールする (2件)
- ・低価格での提供 (2件)
- ・自治会との協力による地域での普及啓発 (2件)
- ・まず生ごみ処理の重要性の啓発から (2件)

など